



表4. 喫煙者の家庭で報告された喫煙禁止の割合

国	喫煙者の家庭で報告された喫煙禁止の割合	
	調査 1	調査 2 (喫煙を継続している喫煙者)
カナダ	27.3%	31.5%
米国	26.4%	27.9%
英国	15.3%	19.0%
オーストラリア	34.1%	43.1%

世界青少年たばこ調査、1999～2005年

スコットランドの2005年集団調査では、42%の家庭で完全に喫煙を禁止していた(56)。ノルウェーの2001年調査によると、全家庭の85%が家族や家族以外の方が屋内で喫煙することを制限するために何らかのルールを適宜持っていた(57)。

討する調査はほとんどない。カナダのオンタリオにおける調査データを解析した研究は、家庭での喫煙禁止の支持率が喫煙者の間でも高いことを示した。データによると、「幼い子どもと時間を過ごす親は、家の中で一切、喫煙すべきではない (parents spending time with

喫煙者も非喫煙者も家庭での禁煙を支持している

家庭が受動喫煙への主要な曝露源であるにもかかわらず、家庭の喫煙制限に関する人々の態度を検

small children should...not smoke at all inside the house)」という表現に同意する非喫煙者の割合は

家庭

世界中の規制当局が子どもを同乗させた車での喫煙禁止を施行し始めているか、施行の可能性を模索し始めている

喫煙に取り組む場合、自宅と同様に、自家用車も従来政府規制の管轄外であると考えられてきた。しかし、最近では、規制当局が子どもを同乗させた車での禁煙令を導入し始めた。米国の3州(アーカンソー、ルイジアナ、カリフォルニア)、1自治領(プエルトリコ)、および幾つかの都市がこのような法律を策定した。さらに、米国のその他多数の州および都市が法案を提唱している。世界的には、キプロス、ノバスコシア(カナダ)、南部オーストラリアおよびタスマニア(オーストラリア)は同様の

法律を導入し、南アフリカの立法では大統領の署名を待っている。また、オーストラリアのクイーンズランドとニューサウスウェールズでは立法について検討されている。

これらの規制当局における法律は、年齢の区切り、施行、および罰則に関してばらつきがある。世界的には、制限される年齢の区切りの範囲は6歳から19歳となっている。米国における法律に違反した場合の罰則は、アラスカの罰金25ドルからルイジアナの罰金150

1992年の62.6%から1996年には78%に増加した。また、この表現に同意した喫煙者の割合も、1992年の51%から1996年には70%に増加していた(58)。同様に、3歳の小児のいる家庭を対象としたノルウェーの研究では、喫煙者のいる家庭の95%、喫煙者のいない家庭の97%が「子どもはたばこの煙のない家庭で暮らす権利を持つべきである (children should have the right to live in a smoke-free home)」との表現に同意している(57)。

世界中で子どもたちは家庭内で受動喫煙にさらされ続けている。子どもが安全なたばこの煙のない環境で暮らし、遊ぶことができるように、家庭内の喫煙禁止の割合を高める取り組みが必要である。

ドルまで広がりがある。アラスカやルイジアナでは、未成年者を乗せた車内での喫煙は一次違反で、法律を違反したことだけで召喚状が発行される場合がある。しかし、カリフォルニアでは、法律の条項により、運転手が車内禁煙令に違反しているかどうかを確認するという目的だけで、警察官が車を停止することは禁止している。

2007年4月9日に、運転中の喫煙を全面的に禁止した法律がニューデリーで施行された。運転中の喫煙は運転者の注意をそらす